

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市 町 村 名 和泉市

実践研究校名 南松尾中学校

【公開授業】公開日：平成25年10月17日（木）

対象学年：中学校2年生

(教材・教科書名) SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 (単元名) PROGRAM 6 A Work Experience Program	(本時の指導の目標) ◎実際に英語を使いながら、不定詞の基本的な用法を使うことができる。 ◎外国の文化について、興味を持って調べようとする。
---	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・ハロウィーンという外国の題材を使い生徒の興味を高めながら、不定詞の三用法を入れて発表させた。
- ・生徒に自分の着たいコスチュームを画用紙に描かせて、Show&Tellを行わせた。

(授業後を終えた教員の感想)

- ・生徒一人ひとりが使用場面を意識しながら発表できた。
- ・生徒にとって少し難しいと思われる不定詞の形容詞的用法も適切に使われていた。
- ・普段からさまざまな場面で英語を発表させているので、大勢の人前でもあまり臆することなく英語を話せていた。

【研究協議会】

(テーマ) 「英語を活用する意識を高めるために」 ～場面設定と技能の統合～	(指導・助言者) 和泉市教育委員会 指導主事 大橋 敏宏
---	------------------------------------

(研究協議会で出された意見)

- ・英語を使う必然性をつくる(場面設定など)が、授業作りの肝であることがわかった。
- ・発表の態度と内容について、英語教育支援員が丁寧にほめ言葉をフィードバックしていることが生徒の意欲につながっていることがわかった。
- ・英文法のしくみだけ教える講義型の授業だけでは、英語嫌いにしてしまうことになるが、活用の時間を設定することによってその問題は回避できると思う。
- ・この学校(南松尾中学校)は、小中の連携がうまくできており、習ったことをみんなの前で発表するなどといった一貫した活動が行われているので、生徒の負担感は少ないように感じられる。

- 文法項目について、説明が少なくても適切な場面設定と練習を繰り返すことによって、習得できることがわかった。
-

(まとめ)

1. 「英語を使えるようになる」ためには、英文法（形）、意味、使い方を、適切な場面の中で練習する必要があること（教師は適切な場面設定を行うこと）。
2. 「聞く」「話す」「読む」「書く」どの技能も欠かすことができず、それぞれを統合する習得の時間が、活用の時間を有意義なものにすることになる。
3. 普段から学んだこと、調べたことについて発表することを習慣にしていれば、生徒の心理的負担は軽く、英語を使うこと・話すことの内容に集中することができる。